

東京鰐陵

発行 ● 東京鰐陵会
発行所 ● 東京都渋谷区神山町4-14
(株)NHKアイテック
総務室内番03-3481-7611
編集 ● 東京鰐陵編集委員会

東京鰐陵会 生江会長を偲ぶ

富澤 豁(1回生)

戦前ならびに戦後しばらくの間は東京における鰐陵同窓会の活動はあまり活発とは言えなかったが、母校が昭和33年秋大震災に遭い、その復興援助の活動が起り、この要請に応えるため東京近辺の同窓生の再結集と組織化が必要となった。生江君はこの推進に当たった中心人物の一人である。同君は当時新生の桐朋学園の基礎固めや発展のために奮闘していたが、同学園に大勢動いていた母校出身の新進気鋭の同僚後援の協力を求めて東京鰐陵会の確立強化を図り、その事務局を同学園女子部に置き、昭和34年5月第一回創立総会を私学会館で開き、会則、組織、人事等を決定し、それ以来三十有余年の着実な運営により今日の発展をもたらした。同君は何と言っても「好漢」

東京鰐陵会会長

生江義男氏逝く。



昨年入院加療中だった生江東京鰐陵会会長は、4月28日午後7時18分、呼吸不全のため三鷹市の病院で逝去されました。つつしんでご冥福をお祈りいたします。

た高橋金雄君にお礼を申し上げたいと思ひ着場後姿を通つたが人混の中に見失ひ、残念でした。

偉大なるロマンチスト

生江先生をしのぶ

1 扇谷 正造(3回生)

生江義男先生と私は、同じ石巻中学(現石巻高校)の出身で、私は3回生、氏は7回生である。しかし、桐朋には石巻中学出身者が何人かいる。佐藤孝己(14回)、亀山慶一(16回)、高橋金雄(17回)、今の理事長兼校長の千葉慶氏(17回)などである。亀山、高橋、千葉の三氏は生江さんが、東京文理大を卒業して、最初に赴任した石巻中学時代の教え子である。

2

生江先生は、経営者としてもすぐれた才能を持っていた。たとえば、音楽科、演劇科の創設である。音楽科は三井不動産相談役の江戸英雄氏に負うところが多い。江戸さんは江戸京子さんの父である。弘夫人は桐朋の先生である。

卒業生には、戦時中気流に乗せてアメリカに船舶爆弾をばそうというプランを立てた慶大名誉教授の富澤(1回生)、二世の創立で日本史学に新生命を切り開いた石母田正(2回生)、東北大名教授山形彰一(3回)、石巻市長の平塚真治郎氏(9回)など多士済々だが、知名度抜群なのは、何といつてもタレントで歌手の中村羅俊君(41回)であろう。

教え子を下下につけていくことは、人生幸福の一つであるといわれている。生江先生はその一人であった。よくいろいろな会合でいっしょになったが、ひとしきりにぎやかな交歓ののち、「じゃ、やりますか」と生江先生、やおら立ちあがる。それ

に合せて、亀山、千葉の二人がお鏡子のハコを箸でたたいておはやしをやる。演じるのはいつも「深川音頭」である。二人が歌う。それに合せて生江先生が踊る。それが、なかなか板についているのである。

聞いてみると、父君は石巻署の長を辞めたあと、市の遊藝協会の会長をしており、家には楽器が、いつも出入りしていたという。なるほどと思ったが、それにしても師弟合奏の踊りはなかなかいいものだった。呼吸がぴったり合っている。

社だったが、ジャーナリストということで、現地の商社、銀行の人たちと会った。すると、これらの人たちが、もっとも心をいためているのは子供たちの教育の問題であった。〇〇銀行では一世は育つても二世は育たないという話をあちこちで聞かされた。(こりゃいいいな)と思った。

平成3年 11月14日(木)午後6時30分から

第11回東京鰐陵会総会

会場: 東京青山会館 会費: 12,000円

副会長兼代付 吉田 稔 (8回生)
 副会長 白沢 純良 (10回生)
 事務局長 高橋 良 (15回生)
 実行委員長 斎藤 順男 (22回生)

実行委員22回生、26回生、30回生理理事

鰐陵の地を巣立ち
 日夜奮闘している同窓生のみなさん。
 心は振れていませんか。
 たまには郷里の風景を思い出しながら
 仲間や新旧会員と話し合い
 鰐陵の輪を広げませんか。
 (ゴザインチャ、マッドクラブ、)

港区南青山4-17-58 TEL(03)3403-1541 (最新版東京鰐陵会名簿代含む)

このことが好きだ。そして生江先生は壮大なロマンチストであった。つまり、永遠の青年であった。

生江さんと「私の現代史」

東京鰐陵会副会長

吉田 稔 84回生



病魔しとの報せに驚きながら入院中の先生を見舞った。昨年10月8日の夕刻のこと、長女洋子さんのお計いで、枕頭で先生の部厚い暖い手を握り声を掛けさせて頂いたが、悲しいことに殆んど反応はなかった。遺り切れない気持ちで奇跡の快復を祈念

壮年に生きた先生

昭和同窓会会長

佐藤 信男 75回生



昭和16年4月、おれおれ17回生は中学3年生となり、3年2組の学級担任が生江先生でした。先生が「私にとっては、人生をどのように進むか、その決断をせまられた年であった」と述懐されておられ、先生にとっ

ては、教師生活の第一歩であり、17回生がはじめての受持生徒になったわけですね。

若くして、ユニークな授業など、当時では異色の教師像であった。鰐陵の先輩としての親しみもあり、先生と過ごした戦中の中学生生活が特に心に刻みこまれている。

しながら物業を辞したが、その後自身の健康のこともあり遂に再びお元氣な先生の聲に接することもなく幽明境を異にするようになった。

旧暦で先生の新歳を迎えた今、全寮委員の依頼で先生の面影を偲ぶ一文に筆を走らせるに際し、先生の「ご遺作の一世、私の受けた教育」を改めてひもといている。

私がTBS・ブリタニカの経営に携わっていた頃、百科事典の編集も一段落した機会に、無理に先生に同社の顧問になって頂き今後の出版企画に参画して頂いた。その中の一つに、「私の現代史」シリーズがあった。これは各界一流の方がたにお願いしてご自分の生い立ちを通じて人生を論じて頂くというもので

訪れるたび、野外授業の場としておこなった。今は切りはらわれてなくなった校庭西側の松林とともに先生の現像が浮んでくる。

戦中戦後の日本の教師の実践者であり、日本の教育史の節部でもあった先生には、もっともつと教えてもらいたいことがあったのに、先生を亡くしたことは痛恨の極みであります。

五十年間の先生の恩恵に感謝し、今は「生江に生きて、立派に結ばれた」恩師の一生を、以てて頂きたいと、自分に言い

かけて先生のご冥福を祈るだけですね。

先生は、故郷石巻をこよなく愛され、石巻の人々は「生江さん」と呼んで敬愛していました。そして又母校石巻に誇りをもっておられました。東京鰐陵会会長として、母校、同窓生によせられた生前のご誠意に敬意を表します。

であった。教育界ではこの「私」には生江先生に白羽の矢が立った。当時先生は桐朋学園三十年、異色の教育実践を行って来られ、山口隆氏の「けっけい先生」のモデルとなったことは同窓諸兄もご存知の通り。教育を論じて頂くのには最適任の筆者と、関係者間で意見が一致した。この執筆依頼に対し案外シャイな先生は仲々「うん」と引き受けて頂けなかったが、熟慮された筆句先生ご自身の受けてこられた教育を語ることもって自分の現代史とすることを条件にお引き受け頂き、昭和53年6月刊行された。

第一章故郷石巻連想、「生い立ちの記」に始まり、六十年間自ら受けた教育の歴史と軌跡を精彩に述べ、「教育とは何か」、「教師とは何か」を問う自伝的教育論を熱く展開されて行く。亡き先生のお許しを頂き、その序文の一端を紹介し、余りにも偉大で異色であった教育者、生江義男先輩を偲ぶよすがとして。

私自身、教員生活二十有餘年、常に自戒してきたことは「教育の立場に立つ」のではなく、「教わる立場に立つ」ということであった。

生をうけてから六十年、私は数多くの方がた、マスメディア、児童・生徒などからたえず学び、これからも学ばうとしている。私は日本の教師の方がた一人一人が「受けてきた教育」を反省し、そのなかから、たえず課題を追求して行く、という態度をもつなら、日本の教育は改善されると確信している。

そして最後にこの書は一人間の「運歴」の跡にすぎない。しかしそれは戦前・戦後のなかで教育に身を投じてきた、一人間の歩みともいえよう。この人間形成の過程を通して、人生を考へる資にしていたければ望外の幸せである。

私はいくつか折に触れて、ご著作に触れて先生の面影を偲び続けるであろう。改めて先生の「冥福をお祈り申し上げる。(8月15日記)

白沢 純 80回生

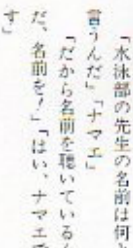
昭和34年、長女が桐朋女子中学に入学。私の姓が石母田から白沢に変わっていたので、しばらくの間、交際がなかった。偶然の機会に面会、石中卒業後、二十数年の歳月を経ていたが、ヤミーと握手。小学・中学時代にもどってしまった。

生江先生は、私とは小さな通りをへだてたガキ大将。いつも自分をつれて、小さなナワバリを守っていたがサヤ当てはなかった。

私は男ばかりの五人兄弟の四番目。シベリア滞りの長兄を迎え、五人ぜんぶが無事という人目もはばかる好運である。戦後五人の兄弟が東京に職を得て、石巻からその居を移していた。

生江先生には、母はおろか兄弟の子供たちの結婚式の祝辞にいたるまでお世話になっていた。

同窓生があつまる。高声放歌、イナカの噂話、中学の先生の物マネ、長持うた、サーカスの唄、斎太郎おし……よくよく脚をふみしめて、ブルーライトヨコハマ。ときどき飲む会合のあいまに、還暦の祝賀会までもしていただく。弟の還暦のときは、横浜まで應援の足をのばしてもらった。兄弟同様の心安い配慮もうけてきた。



「水泳部の先生の名前は何か」「さうなんだ」「ナマエ」

「だから名前を聴いているんだ、名前を」、「はい、ナマエです」

演劇・舞踊・テレビ・余興
藤浪小道具株式会社
装飾・催事の総合企画・制作
株式会社 **藤浪アート・センター**

本社 〒111 東京都台東区浅草6-2-6 TEL03(3874)5171(代表) FAX03(3874)4807
越谷営業所 〒343 埼玉県越谷市蒲生2-11 TEL0489(88)0721(代表) FAX0489(88)0842

代表取締役 白沢 純(旧姓石母田) 第十回生



第10回総会で17回生の教え子にかこまれた生江会長

「おい、馬鹿にすんでねえよ」
この場の空気が次第に険悪とな
ってきたことに気付いた下級生
の一人が、小生の返事に補足し
て「本当なんです、先生の苗字
がナマエでナマエが義男なん
です」(なにーイーウーン)

生担当の歴史の試験を明日に控
えた日でもあった。
「あすの俺の試験は、名前
だけ書いて出しえ、今日は総止
上げだから休まずに泳げ、勉強
は後です、本を読めばわかる
ことだから」との大変激しいも
のであった。この日もトッパリ
日の暮れるまで練習で、(ヘトヘ
ト)になって帰宅する夜道のこと
である。

正に「ケッパリ先生」の命名
につながる先生の一面でもあ
り、今となっては忘れがたい思い
出の一つである。
この年の県大会は、2位以下
に大差をつけての優勝で終つ
た。後日、先生の二自宅に招待
を受けての祝勝会の後段で、あ
んな達のふんばりで、ようやく
俺の宿願をかかえさせてもらっ

た。一生の思い出として、また
誇りとして残るだろう。有難うと
一人ひとりの手を握ってくれ
たことは、それまで見せてもら
えなかった一面を目の当りに
し、大変感動的だったことを覚
えている。
ちなみに、「名前だけ書いて出
せ」との言い付けに従い、白紙
で出した著の生江先生の歴史の
試験は、通信簿には「乙」と書
いてあったこともなつかしい。

我々17回生が、生江ゲホ先生
と出会ったのは、昭和16年春?
で、昭和18年秋に応募されるま
での短期間である。従って先生
との思い出といっても、私には
これというものが無い。敢て拾
えば初めて教わった「ヘレニズ
ム」のことである。ヘレニズム
が世界の文化に如何に影響を与
えたかを歴史的に新任の先生は
説明したが、当時の私の力では
理解したとはとても言えない。
では何でヘレニズムを取り上げ
たかといえば、後年モスクワか
らの増進アネに立寄り、オリ
ンポスの神殿を見学したが、そ
こは風化した柱廊を残す塵墟
で、嘗ての壮麗であった神殿の
主要部分は欧米諸国に持ち出さ
れ、ヘレニズムの源泉の面影は
推測する以外になく、折角訪ね
たのに三月下旬の気候風土を味
わっただけで勿々にローマへ出
発したという思い出があるから
である。この事について歴史教
育の感想を先生から聴けたらと
思いながら果敢ない中に、先生

は長逝したのである。先生の御
冥福を祈るのみである。合掌

鉄拳エリート教師
梅 茂男 18回生



先生の計帳を知ったのは、長
兄の三國忠で石巻にいたときで
す。私の兄は石巻小・中を通じ
先生の一年上で、小学校の教科
書を「胸下がり」した仲であり、
それと先生の気さくなところが
私に「層級しみを覚えさせたの
でしょう」。

私も18回生が2年のとき母
校に初めて就任されたのです
が、その精悍な風貌は、まさに
新進気鋭の、今というエリート
教師そのものでした。あの頃は
教師の鉄拳制裁など日常茶飯事
で、先生のそれは物凄かった。
後年、東京野陸会総会で、「先生
も随分暴なことをしたものです
ね」と私が減らす口をたたくと、
先生は豪快に笑われ、「とくに
時効 時代が過ぎたもの、最高
の懐かしい思い出」とがっかり
握手されたのです。



先生は私学界の大御所にも関
わらず、少しも気取ることがな
く、気軽に話しかける人柄が、
同級生始め多方面の人々に深く
慕われました。

残されたお仕事もあったと思
います。誠に早い死で残念です。
ここに在りし日を思い、ご冥福
を祈ります。

忘れられぬ言葉
大友 輝美 18回生
我々石中18回生が、生江先
生に教を受けたのは確か昭和

16年に「地理」の課目と記憶し
ております。特に50年経った今
でも鮮明に残っていることは、
「フォッサマグナ」と言う名称
で、これは皆様ご存じの通り、
糸魚川ー静岡構造線と呼ばれる
断層のことであり、この断層に
よって日本列島は東西の地質構
造が異なる、という学説です。
先生が熱弁を振るわれた賜と思
っております。

また、最近感銘を受けました
のは六・七年前と思いますが、
先生と同窓会でお会いした際、
教育の真諦について尋ねました
処、「教育とは生徒の名前を覚
え、声をかけ問をたいて励ま
してやることではあるまいか」
と答えられました。この一言は、
長い間教育界の重鎮として君臨
しておられた先生の人格がしの
ばれる言葉と思います。
先生安らかにお眠り下さい。

生江義男先生のご逝去を悼む

〈東京鰐陵会・十七回生〉

- 石川 久
- 遠藤健七郎
- 小田健太郎
- 春日浩一
- 熊谷 孝
- 小林 郁
- 今野篤教
- 佐々木陽一
- 鈴木正三
- 鈴木善三
- 高橋金雄
- 武内六郎
- 武山史郎
- 千葉忠志
- 千葉 隼
- 西村春男
- 新田茂夫
- 畠山盛義
- 福原豊治郎
- 毛利 宏
- 亘理 幸造



事務局便り

東京鰐陵事務局長

高橋 良(15回)

毎日、暑い日が続いておりま
すが、この「東京鰐陵」第4号
を御手にする頃は、冷風が立っ
ていることでしょうか。皆様には
御健勝で各分野で御活躍のこと
を御慶び申し上げます。

4月28日、生江会長(逝去の
際は御通夜、密葬、学園葬、納
骨式(仙台市水島寺)と多数の
会員の皆様の御手伝いと御列席
をいただき事務局からも厚く御
礼申し上げますとともに、改めて
生前のご指導に感謝し、理んで
御冥福をお祈りいたします。
御遺族からも事務局を通じ、
皆様に御礼の御挨拶のありまし
たことを、お伝え申し上げます。
6月12日、理事会を開催し、
会長代行を吉田副会長(8回)
に満場一致で決定しました。吉
田さんからは、体調を崩してい
るからと、ご辞退の意がありま
したが、号令だけ掛けていただ
ければ白沢副会長(10回)以下
私どもがやるということで引き
受けていただきました。次いで、
第11回総会開催の実行委員長を
齊藤(順男)理事(22回)に御
願ひし22回、26回、30回の皆様
に御世話していただくことにな
りました。

さらに、「東京鰐陵」第4号を
会長追悼号として発行すること
にし、その発送時に紙面で御会
開催を通知し出欠をいただくこ
とにしました。東京鰐陵会名簿
も、間に合えば一緒にお送りし
ますが遅れた場合は、総会の時
にお渡しすることになりました。
福原編集委員長(17回)、後藤
広告委員長(20回)、吉田事務局
次長(22回)と渡辺(24回)、三
宅(27回)、貞藤(30回)、内田

(典明)(31回)の各理事に編集
作業と資金ぐりに奮闘をお願い
しました。

なお、第3号の発刊に際して
は、全員有志の広告と会員1、
300人中、約250人のかた
からの御協力をいただき厚くお
礼申し上げます。

また、この度、菅野(七三郎)
理事(21回)のご高配により、東
京鰐陵会事務局を自黒工場協会
に移転し、11月の総会終了後か
ら開局することに決まりました
のでご報告致します。「東京鰐
陵」も第4号ともなりますと先
輩、同期、後輩の消息もだんだ
ん分り、東京鰐陵会の結束も
ますます強くなって来たことは
大変結構なことだと思っております。

鰐陵同窓会
本部事務局だより

鰐陵同窓会事務局長

松本 仁(10回)



一、「喜び」と「悲しみ」

太平洋を見晴すが我が母校鰐
陵の地より、第11回東京鰐陵会
総会のご祝詞を申し上げます。

平成3年7月15日の一大決争
は、35回生辺見庸(本名 秀逸)
氏の芥川賞受賞のニュースであ
りました。以来、9月6日石巻
市民栄誉賞受賞のち母校石巻、
門中など訪問目まぐるしい日程
で帰京されました。前夜9月5
日リバーサイドホテルでの受賞
祝賀会は150名5団体による

もので、それらの歌声は北上川
にこだましました。母校の生徒
諸君も昨年の中村雅俊氏(41回
生)の訪問(11/19)に次ぐも
ので感激の一時でした。

反面、生江義男先生をはじめ
橋本晶氏、菊田昇氏等々惜しみ
てあまりある方々の御報は悲し
みの極でございます。

二、「全日制」と「定時制」と
現役生は「質実剛健・進取独
創・自ら進退を開拓すべし」の
モットーで頑張っております。

昨年は宮城県下でのインター
ハイ、母校よりボート、ヨット
重量級の各郡が出場、とりわけ
年の瀬の花岡大会に、ラッキー
部が4年ぶり4回目の出場をい
だし、各方面から多大のご後助
を賜り有難うございました。

定時制諸君も活発で、今夏2
年連続軟式野球部が神宮大会に
出場をしました。他に卓球・陸
上競技・柔道・剣道の各郡から
個人戦で定体連全国大会に駒を
出すました。

三、「本部」と「支部」と
平成5年の秋、石巻高等学校
は古稀・創立70周年を迎えます。
その為の記念事業協賛会が発足
第一回総会が9月20日開かれま
した。諸計画のトップに「鰐陵
会館建設」があり、設計・募金
活動等の準備に入りました。

34号を数える同窓会報「鰐陵」
(鈴木勇男編集長8回生)の作
業も開始。芥川賞の辺見庸氏の
特別寄稿も快諾を得て居りま
す。各支部・各回生より、ニ
ュースは例年通りです。
母校傘下の「運動部後援会」
(佐藤登会長3回生)も担当の
者の変更がありましたけれど、
前年同様の募金作業がなされ、
おかげで前年に匹敵する後援が
可能となって居ります。
支部(合計17)の日進月歩の
充実発展のある中で、東京(生

江氏7回生、河南町(安倍氏11
回生)、矢本町(土井氏21回生)
そして充足したばかり(1/22)
の雄勝町(菅野氏4回生)の各
支部長の方々が物故されました。

【新聞から】
白沢純氏(10回)が
長谷川伸賞を受賞

歌舞伎や舞踊などに不可欠な
小道具業務に長年携わってきた
白沢純氏が、その功績を認めら
れて第26回長谷川伸賞を受賞さ
れた。同賞は、劇作家・小説家
の長谷川伸を記念して創設さ
れ、演劇界に功勞のあった人に
与えられる名誉ある賞である。

6月の授賞式では、小説家の平
岩弓枝さんから花束を贈呈され
るなど、地道な仕事を支える人
達の勞をねぎらうのにふさわし
い授賞式となった。

長谷川伸賞授賞理由「歌舞伎
をはじめとする演劇、舞踊、T
V等の小道具業を通じて日本の
伝統芸能の維持発展に貢献し、
一二十年間に亘る藤浪小道具の
技術と知識を継承して人材の育
成と経営の近代化につとめた功
績に対して。(授賞式のプログラ
ムから)



こと痛惜にたえません。
最後に、東京鰐陵会のみすま
すのご隆盛を祈念しペンを書き
ます。

山形又右衛門氏(11回)が
文部大臣賞を受賞

平成3年度体育功勞者として
山形氏が長年にわたるスポーツ
界への功績が認められて受賞と
なった。山形氏は石中時代にチ
ニス部に入学、大学時代に3年
連続明治神宮大会へ出場するな
ど、在学中から活躍。家業を継
ぎながらこれらの経験を生か
し、石巻市バドミントン協会の
初代会長、座球、卓球などの会
員会副会長を務めている。なお
団体では矢本町体育協会が同賞
に輝いた。(石巻日日新聞から)

辺見秀逸氏(10回)が
芥川賞を受賞
文学界最高の賞といわれる芥
川賞が、辺見氏(ペンネーム「
辺見庸」)の「自動起床装置」に
与えられた。(氏については、「ふ
る里だより」参照)
なお文芸春秋から単行本とし
て刊行されているので一読をす
すめたい。



菅野総合病院

東武中央病院

附属 人工腎臓透析センター

菅野 寿 (15回生)

院 議 員
日本大学 評議員
日本大学医学部同窓会副会長
校 長 人 アフリカ協会 理事
社 団 法 人

〒351 埼玉県和光市本町28
☎(0484)64-5111 (大代表)

各期だより

培われし我らが故郷金華山

佐々木 毅 24回生



平成3年8月1日の夜、ズーンという音と同時に、ヒュル、ヒュルと光りの線が昇り、雨雲の去った北上川開北橋の下

高上空に、ピカッと炸裂した光露が、河原を埋め尽くした観客のどよめきをも打ち消し、ズドゥーンと腹に響く。石巻ならではあの静寂を破り、間に包まれていた川面を彩り浮き上がらせたとき、私たちが24回生前ノ業グループの面々は、何時しか四十数年前にタイムスリップして

は、金華山灯台の近くでキャンプを営んでいた。もちろん、金華山はキャンプ禁止区域とは知らずに、である。 天気の良い日はその日だけ、二日目は雨となった。太平洋から吹きつける雨風は想像を絶する程にすさまじく、黄金山神社までたどりつくことが出来ず、怒られるのを覚悟で灯台へ駆け込んだ。一泊をこう交渉役は小生、優しく迎え入れて下さった故郷場台長の笑顔が今でもはっきり思い浮かんできます。 雨風の荒々しさに、なかなか寝付かれずにいるところへ、ロマンチックに聞こえるはずの霧笛までが、悲鳴に聞こえ、鳴りだすたびに飛び上がったらしい。 翌日は快晴とはいかないが、

昭和33年度石高入生の我々は、「鰐陵33会」を結成し、年1回の同期会を開催し、同期生の相互親睦を深めています。 昨年は、毎年8月に石巻で開催される鰐陵同期会の主催を務める順番に当たり、小野寺哲朗



鰐陵33会

木村貴則 33回生

東京鰐陵会を支えた人々

後藤芳蔵 前回生

東京鰐陵会を創り、発展に力を尽して、常に同窓の中心的存在であった生江会長が去る4月28日逝去されました。先生の遺徳を偲び、また鰐陵会を支えてきた方々の面影を思い浮かべるとき、感慨深いものがあります。

終生故郷を思い、母校を忘れず

同窓の絆を断つことのない先生は、金の運賃にも大変な御努力を傾けられましたが、周囲の御理解であって常に協力を惜しまなかった先賢諸兄にも、深く感謝しております。

東京鰐陵会は関係学内にも事務局長を置いていますが、頭切から運賃面、連絡事務等を引き受けて

下されたのは、同学園勤務の石中出身の先生方でした。特に16回の魚山さん、17回の千葉さん、高橋さんには多大な御尽力を今に至るまで賜っています。御三方はいずれも生江門下では秀才の誉れ高く、識見、人格に優れた方ですが、魚山さん、高橋さんは定年退職されました。千葉さんは先生の遺愛を継ぎ、理事長兼校長として活躍中です。

生江先生は長い間事務局長として裏方に徹し、二代目の会長就任も固辞されましたが、周囲の御理解でやっとなんにつかれました。短かい期間となりましたが、生江会長、高橋良事務局長という新体制で東京鰐陵会の充実を計る、その成果も上がりつつある矢先の御逝去は痛恨の限りです。

ひと晩泊まっていけば、の好意に甘んじてもう一泊したのでいいけなかつた。翌朝、ただならぬ気配で目が醒めると、台風の襲来で、海は荒れほうだいで。当然のことながら船は欠航。帰るに帰れなくなつて、一週間もお世話になつてしまつた。 もともとおいしい食糧の貯蔵量だったのだから、最後には飼育していたウサギや鶏の肉まで食べさせて貰つたりした。なにしろ喰い盛り五人である。台風の前との海は非常に危険なのだが、空きつ腹には勝てず、波にのまれそうになりながら、ウニホヤ、ツブ、など何でも採つてきては食べた。

今思えば、よくもまあお世話下さつたものと、感謝の気持ちでいっぱいである。 その後、塩屋崎灯台へ転勤された職員の高橋さん、灯台番らしの真壁ノモが脚本となり、佐田啓一、高峰秀子主演「喜びも



電気設備工事

株式会社 中村潤商店

代表取締役社長 中村 潤二郎 (16回生)

〒101 東京都千代田区西神田2-5-1 中村ビル 電話 03-3264-8051(代)

電気設備資材製造販売

東京電気商事株式会社

代表取締役社長 中村 潤二郎

電話 03-3263-7121(代)

会長を中心として一年間も掛けてじっくり企画し、当日は東京近郊から多くの同期生が参集し、盛大に駒陵同窓会を盛り上げ、

我が同期の団結

瀬川 徹(31回生)

石高40回生たる我が同期は、在学中、二度に亘る見事な(？)団結を示した仲間である。その思い出は、卒業後23年を経過した今日でも鮮明に残っている。この団結は、必ずしも模範とされるような詳細なものとは言い難いが、熱血沸騰情熱に溢れていた私にとつては、実に心地良いものとして評価している。ではその団結内容を紹介しよう。

我が同期が二年生の時であった。我が石高野球部は、県大会準決勝に進み、敵を破り見事決勝戦へと進出した。その準決勝の応援団が我々二年生であった。野球部の勢いも当然のことながら我々応援団の迫力も敵を圧倒したと自負していた。この勢いで準決勝戦でも応援し、石高時代初の甲子園出場と意気込んでいたところ、学校開校から三年生を応援に出動させ、二年生は校内に残り通常どおり授業をするという方針が伝えられた。我々二年生は激怒し、翌決勝戦の朝、二年生の各クラス全員が応援参加の旗幟を作成し、学校側へ再考を求めた行動に出た。この行動は、早朝の30分位でまとまり、学校側への直訴という形となったのである。学校側も緊急に対応策を練ったが、輸送手段が今からは確保できないとの理由で我々に断念することを求めた。血気盛んな我々は、授業ボイコトを呼び校庭に集まりだした。

そして授業が開始された。しかし、諦めきれない我々は、昼休み時間にラジオの野球中継を校内放送で流すことを思い付き、同期の放送部員の協力を得て学校側に無断で放送を開始した。当然、即期中止命令が出たが、放送部員も権力命令実施を遅らせ、可能な限り放送を続けた。こうした戦いが校内で続いている間に県大会決勝戦は進行し、残念ながら甲子園出場の夢は果せなかつた。我が期としては、我々も応援に参加してあげば、もしかしてという気持ちを今日でも捨てきれない。それは、校内の戦いでみせた同期の連帯感が、そうさせるものかもしれない。

次の団結は、体育祭と文化祭にみられた。既に我々は三年生になっていた。体育祭恒例の昼の応援合戦がはじまろうとしていたところ、私の号令のもとで開始したのは、全員が輪と一をやり出したのである。この奇策は、会場にこられた一般客から大歓迎されたが、学校側は、余く予期していなかったため、指導担当の先生は唖然としておられた。この奇策も運動会当日の朝、秘かに同期の各クラス応援団長と私どもの間で急に提案され、アラスバンド(部長も同期)の協力を得て実施されたものであった。応援団長は、各クラスの移動、配置を相互に協議し、一発勝負で見事成功させてくれた。事情を知らない先生方の中には、事情を知らない先生方われる方までであった。

文化祭においても、我が同期の熱い声援を受けて、私は学校側と交渉し、前夜祭を実施することの許可を得、それまで禁止されていたフレイヤーストームを行うことができた。私が交渉している時、廊下や各教室で再三に亘り、支援してくれたものも同期の仲間であった。

このように紹介すると、我が期は、常に学校と対立していたのではと心配されるかもしれないが、事実はその通りではない。むしろ、私が紹介した自由な行動をとることができたのは、我々の団結と熱意に、各先生方が共感し理解を示して下さいました結果であることを今になって感じている次第である。

あれから23年、現在、私は、弁護士の仕事をしている。比較的法秩序・規則を尊重すべき立場に置かれていて、昔の仲間を支えられた自由な活動が、大変懐しく思い出されてならないのである。

年年歳歳、思いは郷土

星 恵(21回生)



今を去る二十余年前述学のため上京、右も左も分からず不安気な間借り生活を始めたことが昨日のように思い出されます。石高在学当時、東京にOBの会があって、集まる店が新宿にあるという程度のことは知っていました。

三十路を何年か過ぎたある日、新聞で東京鰐陵同窓会開催の記事を発見し、突然ノスタルジーが刺激されたのでしようか、参加しようかしらまいかいに悩んだものです(結局は参加しなかつたのですが)。それから何年かして偶然にも

「生みの」についての一考

菅野三千雄(石高生)

昭和44年石高を卒業、48年大卒を出て営業の世界に入る。4年後に独立して、妻と一緒に一つひとつ夢を実現しつつ、子供を育て順風満帆の中において、充実した毎日を過ごしたことが今は懐かし、あの時代はひよつとしたり夢の世界ではなかつたか、と思う時がある。

58年廃業せざるを得ない状況に追い込まれ、再起を計り拒ばれるまま、また営業の職に就く。間もなくその会社は倒産。単身でいた札幌の社員用マンションを追い立てられる。止むを得ず夜勤の弁当屋さんで2ヶ月働き、その後軌道作業員を経て青函トンネルへ入る。トンネル完工とともに失業、いよいよ生活は切迫。ついに家族から離別を告げられ、万般止むを得ず家族を見送った日は、厳冬の函館で1月14日の吹雪の夕方であつた。

会長を中心として一年間も掛けてじっくり企画し、当日は東京近郊から多くの同期生が参集し、盛大に駒陵同窓会を盛り上げ、



石高40回生たる我が同期は、在学中、二度に亘る見事な(？)団結を示した仲間である。その思い出は、卒業後23年を経過した今日でも鮮明に残っている。

そして授業が開始された。しかし、諦めきれない我々は、昼休み時間にラジオの野球中継を校内放送で流すことを思い付き、同期の放送部員の協力を得て学校側に無断で放送を開始した。

文化祭においても、我が同期の熱い声援を受けて、私は学校側と交渉し、前夜祭を実施することの許可を得、それまで禁止されていたフレイヤーストームを行うことができた。

昭和44年石高を卒業、48年大卒を出て営業の世界に入る。4年後に独立して、妻と一緒に一つひとつ夢を実現しつつ、子供を育て順風満帆の中において、充実した毎日を過ごしたことが今は懐かし、あの時代はひよつとしたり夢の世界ではなかつたか、と思う時がある。

代表
かた
巨理昭
(20回生)

〒100 東京都千代田区神田和泉町一番地一〇号石垣ビル
TEL 〇三三六六六〇七六四 FAX 〇三三六六六四七四五

桜田 徹
(21回生)

桜田税務会計事務所

〒210 川崎市川崎区東田町四二(佐久間ビル)
TEL 〇(四四)二四四二七二八

菊田清五郎(15回生) いろいろ、ご苦労さまです。在職中は金帳、名簿などの広告で協賛したいと思っておりますので次記に連絡して下さい。ご挨拶サンセット(株)日本メンテナンス、電話38137811代表取締役 福田稔臣(13回生) 興隆会の事務局の仕事を大変ご苦労様です。

安原文郎(10回生) 会の運営よろしくお祈り申し上げます。

高橋 剛(10回生) 東京鰐陵No.3をお送りいただき、ありがとうございます。今後とも宜しくお願いいたします。

西条 弘(10回生) いつもお世話様になっております。今後ともよろしくお祈り致します。

佐々木敏二(15回生) 常にお世話いただき、深謝致しております。金帳発行の御努力に付深甚なる敬意を表します。今後共宜しくお祈り申し上げます。

堀井 毅(10回生) 事務局の皆様お世話になりました。本当にご苦労さまでございます。今後ともよろしくお祈りいたします。

今野 東(10回生) 今後共よろしくお祈り致します。

佐藤昌義(10回生) 日頃大変お手数をおかけいたし恐縮に存じます。今後共よろしくお祈り申し上げます。

松川義一(10回生) 会報第3号拝受、益々の御発展お祈り申し上げます。事務局皆様様の二健身の程、お祈り致しております。

佐藤寛太郎(10回生) 生江先生が御病気のよし、如何でしょうか、何とか快癒する様、祈っております。又、事務を預

かる皆様には心から感謝していただきます。

三浦 祐(18回生) いつもお世話になるばかりで申し訳ありません。病身で思うにまかせず、御迷惑ばかりかけております。大変心苦しく思っています。これを最後は一切の連絡、資料送付遠慮させていただきます。悪しからず、益々の御発展をいのりします。(尚気になさらずに御療養に専念し、一日も早い御回復をお祈りします。事務局)

五十嵐正生(10回生) 会報第3号を送付有り難うございました。会報制作にあたってスタッフの方々に御礼申し上げます。

菅原 潔(10回生) 東京鰐陵第3号をお送りいただき誠に有り難う存じます。

須田克英(10回生) 会報発行御苦労様です。運営会報の発行御苦労様です。運営費を御送ります。

木村隆吉(10回生) 会報有り難うございます。

阿部斐夫(10回生) 十年ほど前に、一度総会に出席したさきりです。今年是非出席したいと思っております。

斎藤元四郎(10回生) 事務局の皆様御苦労様です。御祈りですが小生の名前を訂正しておいて下さい。

高橋寿雄(10回生) 東京鰐陵新聞、編集、作成、ご苦労様です。若き頃を思い出しながら拝読させて頂いて居ります。

渋谷善夫(10回生) 何時も御指導、又、御面倒をお掛けし申し訳ありません。

阿部長雄(10回生) 東京鰐陵会報を受領致しまし

た。編集にあつた皆様のおかげで御苦労を多くするものです。今後ともよろしくお祈りいたします。

阿部志明(10回生) 役員の皆様方、本当に御苦労様です。会の発展を御祈り致します。

佐藤允俊(10回生) 会報のご送付、有り難うございます。大変、懐かしく読ませて頂きました。ご苦労さまでして頂きました。事務局)

坂本武久(10回生) 幹事諸兄の御苦労、感謝申し上げます。今後ともよろしくお祈りいたします。今回の御送付に当たって切手が貼られていませんでした。ウツカリミスと思っております。一応御連絡だけいたします。勝手な事を申し訳ありません。(本当に申し訳ございません。)

平野晃男(10回生) 昭和28年卒25回生です。住所が変わりましたのでよろしく。

佐藤英男(10回生) わざわざ御送付いただきありがとうございます。興味深く読ませていただきました。これまでの御苦労、感謝申し上げます。今後の御発展、充実を心から願っております。

浅野孝夫(10回生) 御苦労様だと感謝いたします。勤務先の社名変更しました。(旧)大正海上投資顧問から(新)三井投資顧問(株)へ。取締役調査部長は変わらずです。

小野信夫(10回生) 役員の皆様には日頃大変お世話になっております。みなさまの御健康を、心よりお祈り致します。健康を誇りにしていた主人が昨年あたりから、ボツ、ボツ

と病院に行くようになりまして、さういふ病気を言うわけではなくて、老化をたどる故ださうで、本人は洗んでおります。(くれぐれもご自愛の程をお祈り申し上げます。事務局)

鈴木實夫(10回生) 会報いつも楽しみにしていただ

阿部典明(10回生) 日頃のご苦労、感謝しております。

木村實則(10回生) 生江先生の訃報に接し、残念に思います。次の総会ではお逢い出来るかな、と楽しみにしていましたが、永年の会長職の労をねぎらう企画をお願いいたします。

飯坂正弘(10回生) 東京鰐陵ありがとございます。

中村潤二(10回生) 佐藤寛太郎、松川義一、内藤則幸、亀山慶一

鈴木正三、山田盛義、春日浩一、五郎幸造、高橋金雄、新田茂夫

三輪田和夫、三浦祐、蓮藤俊七郎、小野寺一雄、加藤幸雄

須田克英、菅原潔、五十嵐正生、加藤諸兄、幸石重一郎、千葉茂夫、林千里、古沢義勝

松川照美、宮崎士郎

川畑勲、高橋宏、青山景一、星沢欣二、鈴木政夫、菊地文治、小久雅美、桜田敏、佐藤嘉市、佐々木紀雄、織野善夫、万代茂、杉本孝男

阿部丈夫、奥堀彦良、吉田敬一、斎藤元四郎、阿部斐夫、木村隆吉、阿部巖、吉田悦雄

佐山文彦、亀山兵吉、阿部道夫

*9回生 久村謙道 今泉重郎

*10回生 大澤和郎 内海孝夫

*11回生 阿部勝衛 菊田清五郎 阿部新七 菅原道別 飯豊豊一 島津秀夫 佐藤光一

*12回生 山田清雄 佐々木敏介 庄可正

*13回生 高橋剛 安原文郎 福田稔臣

今野国雄 林田千代雄 白石道義 伊藤富雄 黒川延寿 浅野福雄治男

*15回生 西条弘 堀井毅 佐々木敏二 今野東 高橋良 宮田雅夫 菅野寿 神山茂 佐藤哲夫 佐藤昌義 川村喜三

*16回生 中村潤二 佐藤寛太郎 松川義一 内藤則幸 亀山慶一

*17回生 鈴木正三 山田盛義 春日浩一 五郎幸造 高橋金雄 新田茂夫

*18回生 三輪田和夫 三浦祐 蓮藤俊七郎 小野寺一雄 加藤幸雄

*19回生 須田克英 菅原潔 五十嵐正生 加藤諸兄 幸石重一郎 千葉茂夫 林千里 古沢義勝

*20回生 松川照美 宮崎士郎

*21回生 川畑勲 高橋宏 青山景一 星沢欣二 鈴木政夫 菊地文治 小久雅美 桜田敏 佐藤嘉市 佐々木紀雄 織野善夫 万代茂 杉本孝男

FOOD PACKAGE & MATERIALS SUPPLIER

包装資材

株式会社 ジンパック

代表取締役 増子文子 (36回生)

〒177 東京都練馬区石神井7-20-18
TEL 03 (3904) 2166
FAX 03 (3904) 2154
〒180-03 東京都東久留米市下芝6-3-7
東京福栄卸売市場内
TEL 0424 (75) 2038
センター (財) 日本食肉流通センター内

JEANPACK

家内安全 試験合格 交通安全 商売繁昌 厄除防災 五穀豊穰 良縁安産 長寿多幸

全国の社寺仏閣に納入の専門店

御守の専門店

株式会社 三寶社

代表取締役 絃巳 (30回生)

〒116 東京都荒川区北3-3-14
03-3906-4181

編集余談

「東京鰐陵」の発行を4号までこぎ着けた。3号までは吉田...

わしい女性がコトヒを接待してくる。阿部進君(31回生の理事)の娘さんである。...

取材主幹、月刊ラクビーワールドの出版社だけにアンテナが広い。...

- 高橋寿雄 渋谷善夫 荒川竹雄
三浦茂雄
*24回生
佐藤元俊 阿部志朗 阿部長雄...

「東京鰐陵会 振込先」
郵便振替番号
東京 8-1350194
東京鰐陵会

日本から1番近い
リゾート天国サイパン
釣り、スキューバダイビング
サイパン・キャピタル イン コーポレーション
桑島 馨 (31回生)

電器の秋葉原・電器の大型専門店
株式会社 シントク
本社 文京区湯島1-8-6
本店 千代田区外神田1-10-9
エコー店 千代田区外神田1-16-9
ホトリスト 千代田区外神田1-10-8

新宿で石巻の懐かしい味を!!
鰐陵会員の宴会(5名様以上)には原酒サービス。
浦霞 粟元直常
●石巻・女川・塩釜直送のふる里料理
(一例) 生かき
ほや
笹かま
さつま揚げ
松葉
鮎
酒藏樽 新宿店
社長 佐藤 孝
3208-9772
高田馬場本店 3208-9771 神田南口店 3254-0045 池袋店 3971-5730

鰐陵
KANSAIRYORI GINZA-IRAKA
佐藤信義 (38回生)
☆銀座本店・銀座アメリカヤビル TEL(03)3574-1707
☆銀座コア店・銀座コアビル TEL(03)3572-8465
☆渋谷店・東急プラザ TEL(03)3463-3643
☆新宿店・新宿ルミネ TEL(03)3348-5245
☆横浜西口店・相鉄ジョイナス TEL(045)321-6900
☆横浜東口店・横浜ルミネ TEL(045)453-6694
☆銀座モンクニエ・銀座アメリカヤビル TEL(03)3574-9254
☆銀座崇徳堂・銀座アメリカヤビル TEL(03)3574-9255